

## ■ 浸水予測図を使用する上での注意点

### 1. はじめに

- ① 本浸水予測図は、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの地震・津波「南海トラフ」「別府湾（慶長豊後型地震）」「周防灘断層群主部」について想定したものです。

この最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものですので、**これよりも大きな津波が発生する可能性もあります。**

なお、地震調査研究推進本部が公表している発生確率は以下のとおりです。

- ② 浸水予測図の**浸水域や浸水深等は、人命を最優先に避難を中心とした防災・減災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。**
- ③ 浸水域や浸水深等は、津波の**第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。**
- ④ 浸水域や浸水深等は、地面の凹凸や構造物の影響等により、**浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなる場合があります。**
- ⑤ 活断層型地震による津波は、海溝型地震による津波に比べ、津波のエネルギーは小さいものの到達時間が速いため、揺れを感じたらすぐに高台に避難し、地震の情報を確認後、より大きな津波の恐れのある海溝型地震であった場合は、さらに高台に逃げるなど段階的な避難を心がけることが大切です。

### ○南海トラフの海溝型地震

| 領域または地震名 | 発生確率(%)        |                   | 特記事項                                                             |
|----------|----------------|-------------------|------------------------------------------------------------------|
|          | 30 年以内         | 50 年以内            |                                                                  |
| 東南海地震    | <b>70%～80%</b> | 90%程度<br>もしくはそれ以上 | 大津波を伴う地震が、約 300～400 年と約 700 年の間隔で繰り返し発生したと推定される(直近は 1707 年の宝永地震) |
| 南海地震     | 60%程度          | 90%程度             |                                                                  |

### ○活断層型地震

| 活断層名            |             | 発生確率(%) |            | 特記事項                                                     |
|-----------------|-------------|---------|------------|----------------------------------------------------------|
|                 |             | 30 年以内  | 100 年以内    |                                                          |
| 別府湾-日出生断層帯(東部)  | (別府湾断層帯)    | ほぼ 0    | ほぼ 0～0.005 | ※別府湾を震源とする地震として、1596 年の慶長豊後地震があるが、発生メカニズムは、引き続き検討が必要である。 |
| 大分平野-湯布院断層帯(東部) | (別府地溝南縁断層帯) | 0.03～4  | 0.2～10     |                                                          |
| 周防灘断層群(主部)      |             | 2～4     | 7～10       | —                                                        |

## 2. 注意点

実際にこれらの地震が発生した場合には、潮位や震源の位置などが想定と異なる場合があります。ため、浸水状況は変わることがあります。

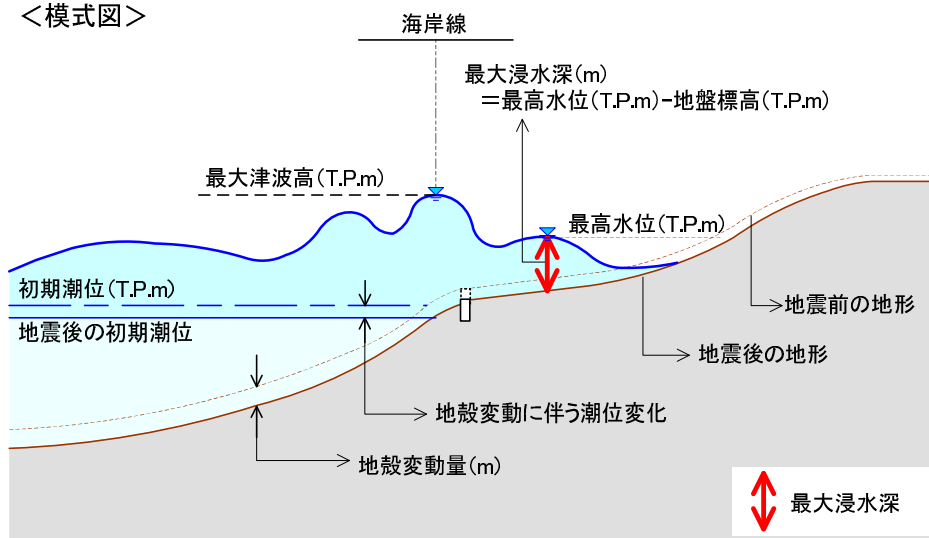
浸水予測は、数値シミュレーションにより行っています。計算条件は次のとおりです。

- ・ 数値シミュレーションは、大分県全体を 10m間隔にメッシュ化して行っています。そのため、10mよりも小さい規模の地形的特徴は反映されていません。
- ・ 計算では主要な河川は地形として考慮していますが、その他の中小河川は考慮していません。実際の津波の場合には、そのような中小河川からの流入も考えられますので、注意してください。
- ・ 本計算では海岸堤防や護岸を考慮しており、水門や陸閘は閉じた状態としています。
- ・ 潮位は、県土周辺の沿岸部の観測地点や港の潮位資料を参考として、同じ程度の潮位が観測されている地域をひとつの範囲にまとめ、その範囲毎に潮位を設定しています。

## 3. 浸水深について

浸水深は、陸地で最も水位が高くなった時の津波の水面の高さを、その場所の地面から測った値です。

<模式図>



## 4. 河川や海岸に接したメッシュについて

本浸水予測では 10m メッシュで地形の標高をモデル化して計算を行っています。そのため、河川や海岸に隣接したメッシュでは、陸地に一部入り込んでいた場合であっても、標高が河床や海底面の高さに近いレベルに（陸地よりも低く）設定されている場合があります、その場合は浸水深が大きく表示されています。